

武蔵野美術大学美術館・図書館(美術資料)収集方針

1 方針策定の趣旨

国内の美術大学において最大規模の造形教育機関である武蔵野美術大学の美術館における資料*の収集にあたりその方針を定め、美術大学の大学美術館として相応しい収集を図り、コレクションを基盤とした展覧会及び本学の教育・研究活動への支援の充実を目指す。

(資料*：当館では開館以来、作品及びその関連資料を含めて「資料」と呼ぶ)

2 収集の基本的な考え方

武蔵野美術大学美術館・図書館は、以下の観点から美術資料を収集する。

- (1) 大学美術館の観点から、本学の多種多様な造形教育に対応した幅広い領域の多様な表現による資料を収集する。
- (2) 大学美術館の観点から、本学関係者による多彩な研究活動を支援し、更には研究領域の拡張や総合的研究力の向上に資するような資料を収集する。
- (3) 美術大学の附属機関として、本学関係者の創造活動の拠点として機能することを目的に、優れた資料を収集する。
- (4) 美術大学の附属機関として、美術及びデザインのプレゼンス向上のために、それらがどのような変遷を辿ってきたかを示す資料を収集する。
- (5) 美術大学の附属機関として、本学に蓄積された教育・研究活動から生まれる資源を社会価値化すること、あるいは美術大学の社会的使命を果たし、その存在意義を広く発信することに寄与するような資料を収集する。

3 収集分野

「学校法人武蔵野美術大学美術館・図書館規約集」第13編 美術館・図書館（武蔵野美術大学美術館・図書館規則）第6条2において、美術資料の収集分野は以下の通り定めている。

- (1) 絵画、版画、彫刻
- (2) グラフィックデザイン

- (3) プロダクトデザイン
- (4) 工芸
- (5) 写真
- (6) 民俗・民族資料
- (7) その他の造形表現資料

4 収集対象

- (1) 武蔵野美術大学にて教鞭を執った作家もしくはデザイナーによる資料
- (2) 武蔵野美術大学にゆかりのある作家もしくはデザイナーによる資料
- (3) 国内外の美術において重要な位置を占める作家による資料
- (4) 国内外の近代以降のデザインにおいて重要な位置を占める資料

5 収集方法

収集は、購入及び寄贈によるものとする。収集にあたっては本学教職員で構成される「美術館・図書館収集・評価委員会」にて審議する。

以上